

九州生乳販連会報

No. **81**
January 2023

TOPICS

新年のご挨拶	1
酪農情勢報告	6
酪農経営改善緊急支援事業について	7
特別寄稿「農業者がガバナンスを握るビジネス主体～農協～は必須のインフラ」	8
令和4年度販売状況について	10
令和4年度会員別生乳受託販売数量	11
令和4年度月別受託生乳検査成績	11
令和5年度畜産物価格および関連対策の決定について	12
令和4年度生乳品質共励会の途中経過について	12
激甚災害に係る見舞金のご報告	13
令和4年度生乳取引交渉について	13
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	14

新年のご挨拶



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長 中村 隆馬

明けましておめでとうございます。

酪農家の皆様並びに会員役職員の皆様には、旧年中も本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと7月豪雨、9月には台風11号の接近、また台風14号は九州に上陸縦断したことで九州全域において約40トンの生乳廃棄の被害が発生しました。改めて被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

引き続き新型コロナウイルスは感染の収束と拡大を繰り返しており、コロナ禍終息後の世界はいまだに見通せませんが、このような中にも

経済回復を目指した活動が続いていきます。コロナ禍によって変わってしまった人や物の動き、価値観によって世界がどのような方向に進んでいくのか、またコロナによって国や人の格差が拡大しており、今後どのような世界になっていくのか先を見通すのが難しくなっているように思います。

酪農家にとってもかつて経験したことのないような1年となりました。長引くコロナ禍の影響やロシアのウクライナ侵攻による政情・経済不安に端を発した世界的な食料や燃料の高騰、円安による飼料、生産資材、燃料の高騰、とりわけ飼料の価格はとても考えられないような水準にあります。また、牛肉消費の不振からF1を中心とした子牛等副産物の価格も急激に下落して、酪農経営を厳しくしています。

酪農乳業界もコロナ禍の影響を受け、インバウンド需要の喪失やまん延防止等重点措置が発令されたことで業務用牛乳乳製品の消費も減少しました。一昨年の年末と昨年の年始には処理不可能乳の発生が懸念されましたが、首相等の呼びかけによる牛乳の応援消費があり発生は回避できました。今回の年末年始も全国的には処理不可能乳の発生が懸念されました。酪農乳業の懸命の努力で処理不可能乳の発生はなんとか

回避されましたが、年度末に向けて引き続き油断できない状況は続いています。

このような状況のなかでは、九州の酪農経営が成り立たないと思い乳価交渉に臨みました。年度当初からの値上げはかなわなかったので期中値上げを実現すべく、今回の交渉では大手乳業三社の九州担当部署との交渉は勿論のこと、本社にも出向いて交渉を行いました。乳業も脱脂粉乳を中心に乳製品在庫を抱えており、牛乳の販売も落ちていることから厳しい交渉となりました。しかしながら、九州産生乳の必要性について話すと絶対必要な生乳であると理解を頂き、飲用・はっ酵向けの10円値上げとなりました。令和4年11月分から値上げとなりましたが、しかし酪農家にとっては10円の値上げではコストの上昇分を補うには充分ではありません。まずはこの現状を乗り越えるために酪農政治連盟と連携し、国など行政への要請を支援する必要があると考えます。一方では、我々酪農家においても生乳生産抑制や消費拡大・酪農理解醸成活動に取り組むことが必要です。また、生産者団体・乳業者団体が一体となって乳製品在庫削減対策にも取り組み、生乳需給を改善することで次のステージに上がり、経営環境を変えることでこの難局を乗り越えることが必要だと考えます。

生乳の受託販売においては「畜産経営の安定に関する法律」の制度改正にともなう、生乳の系統外への販売による問題が見られます。生乳需給改善のため系統においては生産抑制に取り組んでいるのに、系統外は生産抑制がなされていない傾向が統計等で見て取れます。系統が抑制に取り組んでも、系統外が抑制に取り組まなければ抑制の効果は得られないだけでなく、減った分を系統外が生産するという不平等な現象が起こってしまいます。生産者の間に確執を生むような不平等な仕組みは改正しなければならないと考えますので、関係機関と連携して制度改正についてはしっかり意見していきたいと思えます。

生乳需給の改善のため生産抑制への協力をお願いしておりますが直近の九州の生乳生産量は、

酪農経営改善・需給均衡対策事業の取り組みもあり前年比94%を下回って推移しております。これ以上の生産抑制は九州の生産基盤を毀損してしまうことになりかねません。現在のような生乳生産状況が続くと、今年の需要期に生乳が足りなくなる状況も考えられます。3月には酪農経営改善緊急支援事業も始まりますが、生産抑制を加速させるためでなく、あくまでも経営改善のために能力の低い牛の淘汰に取り組むようお願いいたします。

5年度の畜産物価格については12月14日に決定しました。生産者補給金8.69円(前年度±0.43円)と集送乳調整金2.65円(前年度±0.06円)合わせて11.34円(前年度±0.49円)の増額となりました。交付対象数量は前年度345万トンから330万トンとなり10万トン減った一方で、酪農緊急パワーアップ事業が65億円予算措置されました。10万トンを限度に補給金の交付、乳製品過剰在庫対策費、早期乾乳への補助等酪農を支援することとなりました。酪農経営が厳しい中でありますので、事業等を有効に活用して難局を乗り越えていただきたいと思います。

牛乳等の値上げにより消費の落ち込みも想定されますので、消費拡大運動や酪農理解醸成活動は非常に重要になってきます。消費拡大はもちろんのこと酪農理解醸成活動では、消費者の方々に生産現場の現状やどのような気持ちで生乳を生産しているかなど伝えることで消費者に関心を持ってもらうことと、酪農への理解を得ることが非常に重要になります。引き続き力を入れてまいりますので、イベント実施の際には皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本会が指定団体の需給調整機能を維持するためには、何よりも酪農家の皆様の結束が重要と考えます。役職員一丸となって信頼される指定団体を目指して頑張りますので、皆様方の一層のご理解とご協力と九州酪農の発展のためにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

新年の御挨拶



九州農政局長

宮崎 敏行

新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

皆様方には、平素より酪農・乳業行政の推進に御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の酪農・乳業界は、令和元年度以降の新型コロナウイルス感染症の拡大による需要減少に加え、ウクライナ侵攻や円安の進行等により、飼料穀物の国際相場の上昇のほか、燃料、肥料など生産資材の高騰などにより、生産コストが上昇し、経営収支が悪化するといった大変厳しい環境にあったと認識しております。

農林水産省としては、飼料価格の急騰に対応するため、令和3年度補正予算と昨年の総合緊急対策で配合飼料価格安定制度の異常補填金を665億円積み増すとともに、令和4年度第2次補正予算で103億円を更に積み増しました。また、昨年9月には、配合飼料価格の高止まりに対応するため、同制度による補填とは別に、生産コストの削減や飼料自給率の向上に取り組む生産者に対して補填金を交付する緊急対策や、粗飼料等の価格高騰の影響を受ける生産者を対象とした緊急対策を措置しました。

これらは、価格急騰による影響を緩和するための短期的な対策であります。我が国の酪農の持続的な生産体制を確保していくためには、輸入飼料に過度に依存した経営から国産飼料に立脚した経営への転換を図る必要があります。農林水産省では、水田や耕作放棄地の有効活用による飼料の生産、草地等の生産性の向上、広域流通による国産粗飼料の生産・供給拡大など

の取り組みに対しても支援し、酪農経営の体質改善を推進していきたいと考えております。

また、酪農・乳業界が発展していくには、消費者の御理解をいただきながら、生乳の需給ギャップを改善するとともに、乳製品の在庫を低減し、生産コストの上昇を適切に価格に反映していくことも重要です。このため、令和4年度第2次補正予算では、経産牛の早期リタイアによる抑制的な生産の取組を支援する「酪農経営改善緊急支援事業」や「乳製品長期保管事業」を措置するとともに、高品質の国産チーズを生産し需要拡大するための支援策なども措置したところです。

このほか、中長期的な成長が期待される海外市場を積極的に開拓し、国産の牛乳・乳製品の需要拡大を図ることも極めて重要な課題です。政府では、農林水産物・食品について、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円の輸出目標額を設定しており、重点品目である牛乳・乳製品については2030年目標を720億円としております。牛乳・乳製品の輸出額は堅調に推移し、令和3年に244億円と過去最高額を更新し、令和4年も10月時点で昨年を上回る253億円となりました。農林水産省では目標達成に向け、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」によるプロモーションの実施、輸出先国が求める乳製品を製造する施設整備への支援等を通じて、更なる輸出拡大を推進してまいります。

国民の生活・健康維持に欠かせない生乳の生産に携わっている皆さんは、日々の暮らしそのものを支えておられる重要な役割を担っていただいております。九州農政局としましても、酪農に携わる皆様が将来に希望をもって経営を継続していただけるよう、関係者の皆様方との連携を引き続き図るとともに、みどりの食料システム戦略も踏まえ、九州地域における酪農の生産性向上と持続性の両立に向けた支援をしっかりと進めてまいります。

結びに、本年が酪農・乳業界にとってより良き年となりますようお祈りするとともに、貴連合会並びに会員の皆様の益々の御発展を祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

新年を迎えるに あたって

一般社団法人
中央酪農会議
会長 中家 徹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家並びに関係の役職員の皆様におかれましては、日頃より、本会議事業への格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、昨年夏に九州全域で発生した豪雨等により被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。新しい年を迎えるにあたり、最近の酪農をめぐる情勢を踏まえ、所信の一端を述べさせていただきます。

酪農経営を巡る環境は、飼料及び燃料をはじめとしたあらゆる資材価格が高騰する一方で副産物収入となる子牛価格が暴落する経営の危機に加え、過去最高水準の乳製品在庫を抱えるなど生乳需給の緩和が重なる複合危機といえる状況にあります。これらの現状を放置すれば、離農・廃業により国内酪農生産基盤の壊滅的な毀損は避けられない上に、将来の牛乳乳製品の安定供給に大きな支障をもたらし、わが国の食料安全保障上も重大な懸念に繋がりがかねません。

このため、緊急的な支援として、継続的な飼料高騰対策や金融支援で経営を支えつつ、生乳の需給改善を進めるとともに、さらに出回り量が低下している脱脂粉乳の需要拡大を図り、生産コストを適切に価格転嫁できる環境を整備することが急務の課題となっています。

本会におきましては、国によって措置された各種補助事業等も活用しつつ、生産抑制等の入り口対策の他、乳製品在庫削減に係る出口対策等に取り組むこととしております。また、酪農家の経営危機について幅広い国民に理解を求めるとともに、飲用需要を維持・拡大させるため、昨年11月の飲用牛乳等の小売価格の値上げを踏まえ、「すごいぞ！牛乳」というスローガンを設定し、牛乳は国産100%・栄養豊富・健康に役立つ等、ただの飲み物ではないことを伝えていく取組を開始しております。

さらに、可能な限り外的要因に左右されにくい酪農経営に移行するための対策として国内産飼料の生産・利用拡大のほか、現行の畜安法下における需給対応の不公平感是正に向けた検証も重要と考えております。

令和5年度におきましても、本会役職員一同、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、今後も酪農家の皆様が、引き続き「誇り」、「やりがい」、「夢」を持てる酪農産業を確立して行けるよう努めてまいります。

本年も酪農家及び酪農関係者の皆様方のご支援、ご理解の程、宜しくお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりましてより良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶



九州酪農政治連盟協議会
会長 宮本 貞治郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

九州生乳販売農業協同組合連合会の役職員の皆様、九州の酪農家の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の活動につきましては、特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和5年の年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

さて、昨年一年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が国内で確認され早3年が経過しました。ウィズコロナとは申しますが依然として我々の生活や活動に影を差しており収束には時間がかかるようです。またロシアによるウクライナ侵略に端を発する資源価格の高騰や歴史的な円安により、配合飼料を始め粗飼料、肥料、燃料などあらゆる生産資材価格が高値となりました。

このような環境変化により、酪農経営は未だかつてない苦境に立たされており、昨年は例年以上に廃業を決断される酪農生産者が多くなっております。九州においても乳製品過剰在庫を解消するため生産抑制が進められましたが想定していた以上に生乳生産が減少しており、西日本の生乳供給を担う九州の将来的生産基盤を維持できるのか危惧しているところであります。

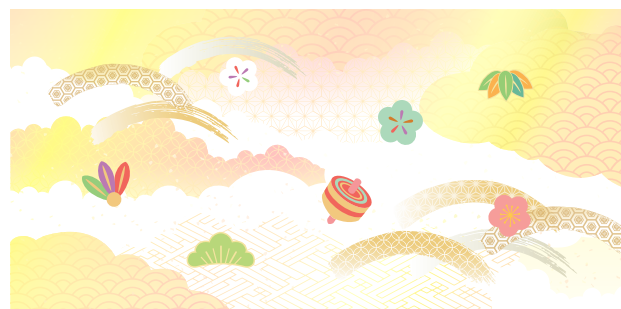
一方、国内の政治情勢につきましては、昨年7月の第26回参議院選挙におきまして自由民主

党が単独で過半数を獲得し与党が大勝する結果となりました。また、当協議会としても心強い事に8月の第二次岸田改造内閣では大変お世話になっております野村哲郎参議院議員（鹿児島県）が農林水産大臣として初入閣され、予備費、令和4年度補正予算、令和5年度ALIC事業による酪農支援事業を立て続けに措置して頂きました。当協議会も『酪農を国民の命を守る食糧安全保障上の重要な産業として明確に位置付けてもらう』を大目標に自由民主党九州選出議員に対する要請活動が結実したものと喜んでおります。

しかしながら、様々な補助事業に昨年11月の乳価値上を加えても生産コストの上昇や副産物価格の下落を補える水準には至っておらず、昨年12月には九州・沖縄各県の酪農青年女性団体から「酪農経営継続に関する要望書」を受け取り酪農家の皆様の切実な声を確認させて頂きました。

当協議会としましては、今後とも九州・沖縄酪農の再生産可能な酪農経営環境の整備に向け、貴連合会、日本酪農政治連盟、九州・沖縄各県の酪政連組織などの関係団体と連携し、離農に歯止めをかけ将来に向け夢をもって営農できる酪農支援策の実現を目指して酪農生産基盤維持・強化に対する国の支援を強く訴えていく所存で御座いますので変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、貴連合会、九州の酪農生産者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和4年12月の生乳出荷戸数は1,126戸で、令和4年3月時点の1,186戸と比較すると60戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

10～12月の23カ月令以下の頭数は前年を上回って推移しましたが、その増加幅は徐々に小さくなっています。一方、24カ月令以上の頭数および総頭数は前年を下回って推移しており、その減少幅は徐々に大きくなっています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

	10月	11月	12月
23カ月令以下	29,007	29,051	28,921
	増減	964	710
	前年比	103.4%	102.5%
24カ月令以上	72,870	72,665	72,569
	増減	-2,353	-2,612
	前年比	96.9%	96.5%
総頭数	101,877	101,716	101,490
	増減	-1,389	-1,902
	前年比	98.7%	98.2%

注:Jミルクホームページより

9～11月の出生総頭数は前年を下回って推移し、その減少幅は徐々に大きくなっています。また、その内訳として、9～11月の乳用種雌、乳用種雄、交雑種すべてで前年を下回りました(表2)。

表2 出生頭数 (単位:頭)

	9月	10月	11月	累計(9-11月)
総頭数	4,428	4,292	4,105	12,825
	増減	-220	-311	-957
	前年比	95.3%	93.2%	90.6%
うち、乳用種雌	1,207	1,158	1,035	3,400
	増減	22	-96	-78
	前年比	101.9%	92.3%	93.0%
うち、乳用種雄	565	563	476	1,604
	増減	-167	-112	-151
	前年比	77.2%	83.4%	75.9%
うち、交雑種	1,962	1,985	1,919	5,866
	増減	-287	-220	-357
	前年比	87.2%	90.0%	84.3%

注:Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1)生乳受託販売数量

10～12月の生乳受託販売数量は、飼料価格を始めとする生乳生産資材価格の高騰で厳しい酪農環境が続

く中、生産抑制の取組が続いていることに加え、夏場の暑さが厳しかったことによる牛体へのダメージの蓄積もあり、前年を大きく下回って推移しました。また、同期間中の都府県・北海道も、生産抑制の効果が徐々に表れてきたことで、全国でも前年を下回って推移しました(表3)。

表3 生乳受託販売数量 (単位: t, %)

	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	46,022	45,048	47,090	138,160
	前年比	94.8%	93.9%	93.5%
都府県	248,810	241,224	251,002	741,035
	前年比	98.3%	97.2%	96.7%
北海道	334,331	319,256	329,682	983,269
	前年比	97.2%	95.6%	94.5%
全国	583,141	560,480	580,684	1,724,305
	前年比	97.6%	96.3%	95.4%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2)生乳販売状況

令和4年11月から飲用向け乳価およびはっ酵乳向け乳価の改定を行い、それに伴い牛乳・ヨーグルト等の値上げも行われましたが、11・12月の推移を見る限り、消費は一部に減少が見られるものの、想定された大幅な減少とはなっていません。こうした状況の中、10～12月の生乳販売状況は、生乳生産が前年を大きく下回る一方で域内需要は堅調に推移し、域外飲用および脱脂粉乳・バター等向けが前年を大きく下回りました。また、年末年始については、域内の乳製品工場の協力のもと、混乱なく無事乗り越えられたことをご報告いたします。

なお、10～12月の全国の生乳販売状況は、飲用向け、脱脂粉乳・バター等向けともに前年を下回った水準での推移となりました(表4)。

表4 用途別販売数量 (単位: t, %)

	用途	10月	11月	12月	累計(10-12月)
九州	飲用(前年比)	34,458 94.6%	33,167 96.7%	30,104 93.7%	97,729 95.0%
	はっ酵乳(前年比)	7,044 98.3%	6,818 102.9%	6,599 100.3%	20,461 100.4%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	2,005 84.4%	2,369 54.6%	7,546 84.3%	11,920 76.1%
	生クリーム(前年比)	2,419 97.1%	2,599 99.2%	2,748 104.9%	7,767 100.5%
	チーズ(前年比)	95 99.1%	96 99.1%	93 108.1%	284 101.9%
全国	飲用(前年比)	275,712 97.4%	253,013 96.9%	238,841 96.3%	767,565 96.9%
	はっ酵乳(前年比)	37,476 98.1%	34,759 96.2%	34,202 97.1%	106,437 97.1%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	122,750 94.9%	125,061 91.6%	161,049 92.4%	408,860 92.9%
	生クリーム(前年比)	112,184 101.3%	111,739 96.8%	107,611 96.0%	331,533 98.0%
	チーズ(前年比)	35,020 97.4%	35,908 109.2%	38,981 100.8%	109,909 102.2%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

(7ページへ続く)

4. 今後の生乳需給について

飼料価格を始めとする生乳生産資材価格の高騰が続く中、生乳生産抑制の取組もあって生乳受託販売数量は前年を5～7%下回って推移する一方、域内需要は価格改定後も堅調に推移しており、脱脂粉乳・バター等向けは前年を大幅に下回っています。併せて、全国の生産抑制効果も徐々に表れてきていることから、全国の脱脂粉乳・バター等向けも前年を下回る推移となりました。生産抑制の取組が功を奏し、需給改善の兆

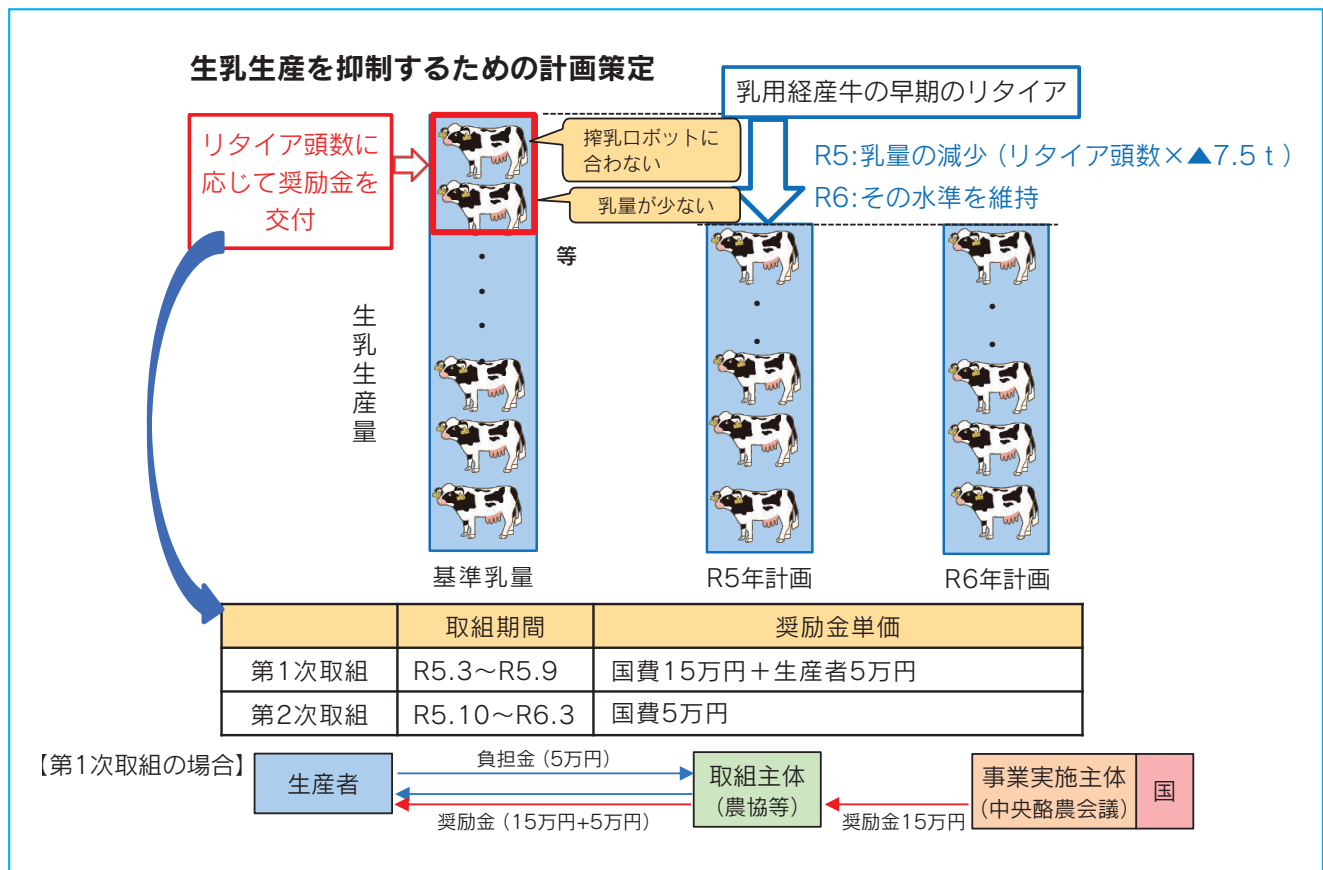
しが見えてきたと言えます。ただし、価格改定後の需要動向はまだ不透明であり、脱脂粉乳在庫も解消されている訳ではないことから、令和5年度に向けての生乳需給は依然として不透明感が漂っています。

本会としては、来年度に向けて少しでもいい環境が作れるよう（一社）中央酪農会議や他ブロック指定団体・全国連・各乳業者と協議を行っていくとともに、引き続き酪農理解醸成・消費拡大活動に積極的に取り組んでまいります。

酪農経営改善緊急支援事業について

ウクライナ情勢や円安等の影響による飼料費等の高騰により、生乳の生産コストが上昇する一方、新型コロナウイルス感染症の影響等により牛乳乳製品需要が低迷し、生乳の需給ギャップの解消が緊急的な課題となっていることを受けて、生産者の抑制的な生産への取組を支援し、生乳の需給ギャップを早期に改善するとともに、収益の安定を通じた酪農経営の改善を図ることを目的として、国の補助事業で「酪農経営改善緊急支援事業」が措置されました。

本事業は、事業に参加する生産者が予め生乳生産抑制計画に基づく計画頭数1頭当たり5万円の積立を行ったうえで、実際のリタイア頭数に応じて奨励金が交付されますが、基準乳量（令和3年10月から令和4年9月の全出荷量）に対し令和5年度の全生乳出荷量を1頭につき7.5t抑制させる必要があります。また、本事業では原則として令和5・6年度での継続的な酪農経営が求められています。事業の詳細につきましては、ご所属の農協にお問い合わせください。



農業者がガバナンスを握るビジネス主体 ～農協～は必須のインフラ

日本協同組合連携機構(JCA)

代表理事専務 比嘉 政浩

■ 日本の農協は諸外国の農協の育成を支援してきた

農協グループは「アジア農協振興機関(略称IDACA)」という開発途上国の農協育成・振興のための組織を持っています。これまでに6,500人以上の研修生を受け入れましたし、タイ、インドネシア、ベトナム、ラオス、フィリピン、エチオピア、ルーマニアなどに職員が赴き、現地の農協育成プロジェクトなどを支援してきました。

■ なぜ各国は農協を育成しようとするのか

なぜ日本に学び農協を育成しようとするのでしょうか。具体的な狙いは各国で異なるでしょうが、「農業者の立場に立って流通・加工業者、実需者等と向き合うビジネス主体が必須だから」ということは共通だと考えます。

酪農家を含め農業者が収入を得るためには投資と時間(即ち、その間の生活費)が必要です。開発途上国の貧しい農業者は将来の生産物を担保に借金します。借りる側の立場は弱く一般に金利は高い。流通業者等の方が農業者より規模が大きいいうえに農産物は保存性が低い。農業者による有利販売は至難で、しかも農産物を借金の担保に取られている。元利を返済し、手許には残らず、また借入れからスタート……これでは農業者は貧しさから抜け出せません。

そこで金融機能を備えた日本型の農協を育成し、適正金利での借入を可能にする。農協が農産物加工や保管機能を持つ。そして農協が農業者の立場にたって流通業者等と農産物の販売・価格交渉等をする。農協の育成を通じた農業・農村の発展を期しているのです。

■ 誰かが善意でやってくれればいい？

しかし、初めて農協を創ることは容易ではありません。流通業者等に対抗すべく、農業者は互いに協力しまとまる必要があります。皆で出資金を出しあい、場合によっては農産物の規格統一などの努力も必要になります。運営のための話し合いも面倒でしょう。

誰か善意のお金持ちが、農業者の側にたって全部やってくれればいいのに。そう思う農業者もおられるでしょうし、現にそれに近い存在もありうるでしょう。

しかし、一時は農業者の立場でビジネスを展開しても、時間の経過、トップの交代などで経営体の性格が変質していく例はあります。どこかで「俺は金を引き上げる」と言えば、その意向に逆らえない。やはり、農業者がガバナンスを握っているビジネス主体＝農協が必要だ。

各国政府はそう判断しているのでしょう。それ以外の流通業者もあっていい。けれども農協があることで、それ以外の流通業者も農業者の立場を軽視できなくなることを狙っていると理解しています。

■ 農業者がガバナンスを握るために

世界中の協同組合には共通する運営原則、協同組合原則があります。これには、組合員による民主的管理(組合員一人一票で意思決定)、組合財政への参加(組合員の出資で事業の元手を作る)などが掲げられ、組合員の意思から離れた運営ができないように決められています。

日本の農協法をはじめ多くの協同組合法はこの協同組合原則にそって制定されており、組合員の一人一票による意思決定などが担保されています。

■ 農協は必須のインフラ

開発途上国には課題が多く、その解決のために、多くのインフラを整備せねばなりません。それは私たちが日常享受しているもの、上下水道、電気、通信、交通、病院、消防、警察、裁判所、法律諸制度などです。

私は、農協はこうした必須のインフラの一つであると考えています。農業の特性を踏まえれば、農協が無ければ農業・農村の発展は難しい。農協は先進国、開発途上国を問わず多くの国々にあります。他のインフラと同様、当たり前の存在になっており、設立当初の切実さがわかりにくくなっているのだと思います。

■ だからと言って

だからと言って、農協に無批判であるべき、とは思いません。多くの方が各種インフラの必要性を理解したうえで、高度化、効率化、合目的的变化を求めています。鉄道より道路網整備が相応しい時代がありうるように変化は必要です。農協も同じで、特に役職員の方々は農協の使命を絶えず意識し、常により良い事業のやり方を具体的に模索する必要があるでしょう。

■ 主権者として

農協の正組合員である農業者の方々は農協のあり方を決める主権者です。その意味では国民と政府の関係と同じです。民主的國家の運営は手間がかかります。しかも、制度さえあればうまく行くと言うほど単純でもなく、私たちがため息をつくことも多い。けれども私たちは諦めることはできません。主張し、話し合い、少しでも良い方向に行くよう努力しなければなりません。無くてはならない存在であり、主権者を超越する國家はありえないからです。

農協を導いていくのは、最終的には農業者の方々です。諸制度はそれを担保しています。「農業者の側に立つビジネス主体は必須なのだ、それをさらに効果的な存在にするため積極的に主張し、役職員と協議して、納得の上で農業者が相互に協力していくのだ」とお考えいただくと幸いです。

令和4年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		10月			11月			12月			第3四半期計			年度累計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	25,605	99.1	115.465	22,930	101.7	124.432	22,166	99.9	123.930	70,702	100.2	121.127	224,118	99.9	116.873
	学校給食向け	4,113	93.9		4,068	99.7		3,327	95.4		11,507	96.3		29,923	96.9	
	域外飲用向け	5,014	77.0		6,419	80.8		4,834	71.8		16,267	76.8		55,624	84.1	
	飲用牛乳等向け	34,732	94.6		33,418	96.7		30,327	93.6		98,476	95.0		309,665	96.4	
	はっ酵乳等向け	7,044	98.3		6,818	102.9		6,599	100.3		20,461	100.4		64,302	99.5	
	飲用等向け合計	41,776	95.2		40,235	97.7		36,926	94.7		118,937	95.9		373,967	96.9	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	2,044	85.1	82.737	2,429	55.5	82.208	7,654	84.7	78.995	12,127	76.7	80.659	33,796	82.6	80.659
	クリーム等向け	2,445	97.4		2,624	99.4		2,767	104.9		7,837	100.6		21,855	100.7	
	チ ー ズ 向 け	95	99.1		96	99.1		93	108.1		284	101.8		859	100.8	
	特定乳製品向け計	4,584	91.6		5,150	72.3		10,514	89.4		20,248	84.8		56,510	89.1	
販 売 乳 量 合 計		46,360	94.8	112.229	45,385	93.9	119.641	47,440	93.5	113.972	139,185	94.1	115.240	430,477	95.8	112.119

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

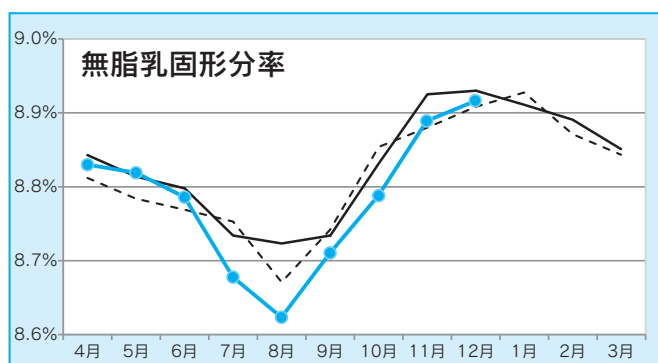
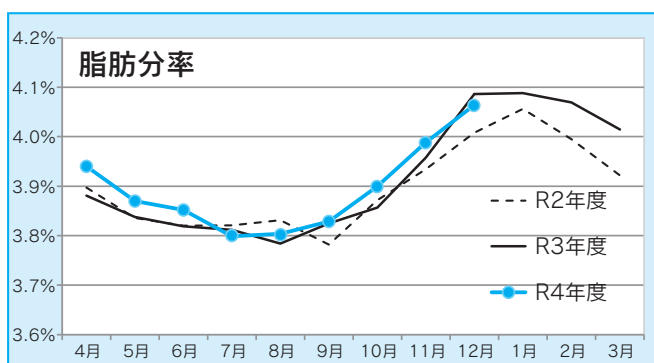
項 目	10月		11月		12月		第3四半期計		年度累計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,202,941	112.229	5,429,914	119.641	5,406,777	113.972	16,039,632	115.240	48,264,631	112.119
脂 肪 分 加 算 金	38,104	0.822	43,157	0.951	54,809	1.155	136,069	0.978	338,537	0.786
無脂固形分加算金	44,999	0.971	48,541	1.070	55,945	1.179	149,485	1.074	397,649	0.924
成分加算金計②	83,103	1.793	91,697	2.020	110,753	2.335	285,554	2.052	736,186	1.710
季節別調整率③	105%	-	100%	-	93%	-	-	-	-	-
季節別調整金	260,147	5.611	0	0.000	-378,474	-7.978	-118,327	-0.850	957,481	2.224
調整後乳代④=①×③	5,463,088	117.840	5,429,914	119.641	5,028,303	105.994	15,921,305	114.390	49,222,112	114.343
販 売 手 数 料	15,858	0.342	16,565	0.365	16,553	0.349	48,976	0.352	147,002	0.341
生 乳 検 査 料	5,563	0.120	5,446	0.120	5,693	0.120	16,702	0.120	51,657	0.120
送 乳 経 費	168,340	3.631	180,098	3.968	168,937	3.561	517,374	3.717	1,646,609	3.825
需要者負担額(運賃補填)	-3,011	-0.065	-2,969	-0.065	-2,233	-0.047	-8,214	-0.059	-24,424	-0.057
C S ・ 冷 却 費	48,684	1.050	44,893	0.989	60,012	1.265	153,588	1.103	452,621	1.051
集 乳 経 費	107,787	2.325	110,807	2.441	115,624	2.437	334,218	2.401	1,008,136	2.342
プ ール 費 用 ⑤	343,221	7.403	354,839	7.818	364,585	7.685	1,062,645	7.635	3,281,602	7.623
差引乳価②+④-⑤	5,202,970	112.229	5,166,772	113.843	4,774,471	100.643	15,144,214	108.807	46,676,696	108.430

令和4年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

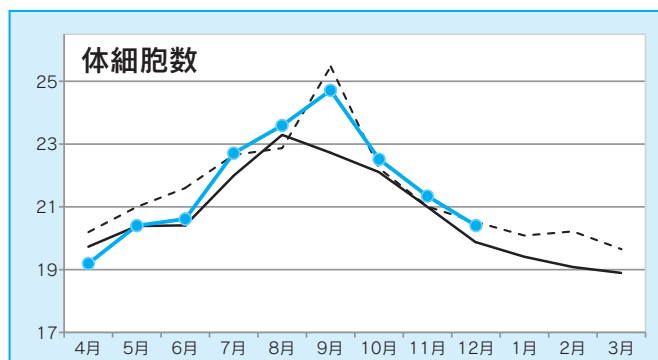
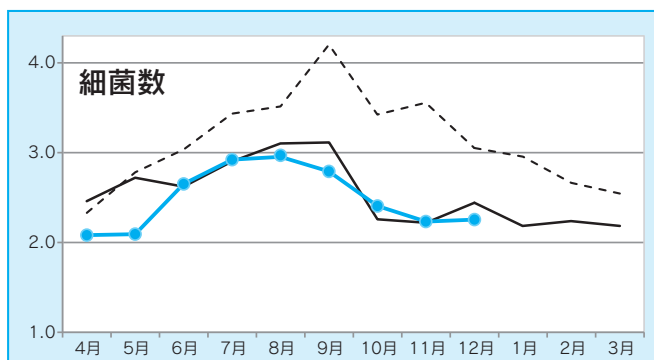
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
上期合計	33,891	93.5	6,752	96.3	16,578	94.2	131,016	99.7	34,086	97.0	35,558	98.0	33,410	88.3	291,292	96.6
10月	5,305	89.2	1,083	94.5	2,510	91.6	21,253	98.7	5,582	96.8	5,682	97.2	4,945	83.3	46,360	94.8
11月	5,125	87.9	1,057	94.3	2,473	89.3	20,833	98.6	5,465	95.5	5,597	97.7	4,835	80.3	45,385	93.9
12月	5,298	87.5	1,086	94.2	2,634	90.0	21,683	98.2	5,733	95.1	5,876	96.8	5,130	80.0	47,440	93.5
合 計	49,619	91.7	9,978	95.6	24,195	93.0	194,786	99.3	50,867	96.6	52,713	97.7	48,320	86.0	430,477	95.8

令和4年度 月別受託生乳検査成績



(単位: %)

(単位: %)



令和5年度畜産物価格および関連対策の決定について

(1) 加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の単価、ならびに全国の交付対象数量が以下のとおり決定されました。

令和5年度加工原料乳生産者補給金単価等

	令和5年度	対前年差
加工原料乳生産者補給金	8.69円/kg	+0.43円/kg
集送乳調整金	2.65円/kg	+0.06円/kg
合計	11.34円/kg	+0.49円/kg
交付対象数量	330万トン	△15万トン

(2) 令和5年度のALIC事業によるその他対策および緊急対策の概要（農林水産省公表）によると、生乳生産コストの上昇を価格転嫁等により克服していくための環境整備を図るため、酪農緊急パワーアップ事業（所要額6,500百万円）によって、以下の取り組みに対して支援が行われます。

- ① 生産者団体、乳業メーカーが協調して行う脱脂粉乳在庫の削減の推進
- ② 乳製品のECサイト等への販売形態の変更、消費拡大のプロモーション
- ③ 牛乳等の消費の減退により加工仕向けが総交付対象数量を超えた場合に、生乳の生産抑制を計画的に実行している指定生乳生産者団体等に対し、合計10万トンを限度として、加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金の相当額を交付
- ④ 早期乾乳の推進
- ⑤ 搾乳ロボット等の先進的機器の導入と一体的な施設の整備

令和4年度生乳品質共励会の途中経過について

第3四半期終了時点での共励会審査対象戸数は1,119戸（昨年1,195戸）となっています。満点得点者は0名（昨年1名）です。12月までの九州全体の平均点は650点（昨年666点）、16ポイント下降しました。750点以上（年間で優良賞以上に該当）を取っている生産者は198戸となり、公共施設・大学高校6戸が含まれています。

今年度は、酷暑の影響により搾乳牛にダメージが残りました。また、生産現場では飼料の高騰により飼養管理に苦慮しています。しかし、生産規模により生産管理ポイントが異なりますが、作業する人が変わっても搾乳マニュアルを遵守し、正しい管理作業が実施されれば生乳の乳質は安定し、ペナルティや乳質評価基準をクリアできることが分かります。

なお、規模別の最高得点者と全体の上位30名程度の方々には、最優秀賞・優秀賞として牧場名が刻まれたステンレスプレートや副賞が贈られます。良質な生乳生産管理技術の証として、牧場の入口などに掲げることができます。今年度も残り2か月となりましたが、今後も良質な生乳生産にご協力下さい。

令和4年度 県別の優良賞者数（12月現在）

階層別戸数分布

得点	累計	分布	分布比率	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
900	0	0	0.0%							
880～899	1	1	0.1%	1						
860～879	9	8	0.7%			1	3	2	1	1
840～859	18	9	0.8%	1		2	4	1		1
820～839	41	23	2.1%	1	1	4	12	2	3	
800～819	72	31	2.8%	2		2	16		5	6
780～799	115	43	3.8%	4	1	5	23	3	6	1
760～779	163	48	4.3%	5	1	3	22	2	11	4
740～759	233	70	6.3%	8		6	34	6	12	4
739未満	1,119	886	79.2%	139	29	75	310	61	159	113
対象酪農家戸数			1,119	161	32	98	424	77	197	130
平均点			650	634	602	637	679	648	637	621

激甚災害に係る見舞金のご報告

令和4年9月に発生した暴風雨及び豪雨が激甚災害に指定されたことから、(一社)中央酪農会議は被災酪農家の生産再開を補完的に支援するために制定された「生乳需要維持のための災害対応要領」を適用し、生乳廃棄被害を受けた地域に対する見舞金が算出されました。

九州地域は、廃棄生乳量39,110kgに対して963,042円の見舞金を受けましたので、生乳廃棄が発生した県に廃棄量に応じて下記の通り配分いたしました。

この度の自然災害にて被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

1. 対象の自然災害について

(1) 令和四年九月十七日から同月二十四日までの間の暴風雨及び豪雨による災害

2. 見舞金の配分額について

(1) 受入額	963,042円		
(2) 会員別配分	ふくおか県酪協	22,161円	大分県酪協 126,813円
	佐賀県農協	19,699円	宮崎県経済連 368,227円
	長崎県酪連	24,057円	鹿児島県酪協 301,373円
	熊本県酪連	100,712円	

令和4年度生乳取引交渉について

酪農・乳業界は、令和4年4月1日より「乳製品在庫対策」、「酪農経営改善・需給均衡対策事業(生産抑制)」に取り組み、本格的な需給改善に向けて動き出しました。

そして、待ったがかけられないほど厳しい酪農家の窮状を訴え、下記の通り令和4年11月1日より生乳取引価格の期中改定(値上げ)を実現することができました。

1 飲用牛乳等向け価格……………10円/kg

2 はっ酵乳等向け価格……………10円/kg

3 学校給食牛乳向け価格……………10円/kg

鹿児島県・宮崎県……………(令和4年11月1日より期中改定)

福岡市……………(令和4年12月1日より期中改定)

大分県……………(令和5年1月1日より期中改定)

4 クリーム等向け、脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け生乳取引価格については、全国的な情勢を踏まえ北海道において、令和5年4月1日より10円/kg値上げで生乳取引価格が決着致しました。これを受け九州においても、令和5年4月1日よりクリーム等向け、脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け10円/kg値上げの交渉に速やかに着手致します。

まだまだ厳しい酪農・乳業界ですが、コロナ終息・インバウンドの急回復・国内消費の底上げなど新たな局面が見えつつあります。今一步、生産者、乳業者の新たな協力体制を構築し進むときです。

ミルクde応援！プレゼントキャンペーン 2022-2023

年末年始を含む不需要期の牛乳の販売促進につなげる施策として「ミルクde応援！プレゼントキャンペーン 2022-2023」を実施しました。

このキャンペーンは、2022年12月20日（火）～ 2023年1月31日（火）にイオン九州の店舗（イオン、イオンスタイル、マックスバリュ、ザ・ビッグ）248店舗にて実施し、キャンペーン対象の成分無調整牛乳を購入し、レシートを撮影して九州 Love Milk ClubのLINE公式アカウントより応募した方の中から抽選で賞品をプレゼントするという内容でした。

このキャンペーン実施に合わせ、2023年1月8日（日）にはイオンモール福岡にてイオン九州との合同記者会見を実施しました。本会からは中村隆馬会長が出席し、コロナ禍中や価格改訂後も変わらず牛乳を飲み続けていただいている消費者への感謝の気持ちを述べるとともに、イオン九州の西嶋洋一郎上席執行役員と一緒にグラスに注がれた牛乳を飲み干し、キャンペーンの実施を大々的にアピールしました。

今回の企画への想いやキャンペーンの詳細につきましては下記特設サイトにて紹介していますので、こちらを是非ご覧ください。

『ミルクde応援 プレゼントキャンペーン 2022-2023』特設サイト↓

<https://kyuhanren.com/milk-de-ouen2022-2023/>

イオン九州 × 九州 Love Milk Club
キャンペーン対象の 牛乳飲んで当たる！
ミルクde応援 プレゼントキャンペーン 2022-2023
2022年12月20日（火）～ 2023年1月31日（火）

賞品	当選条件
シンデニャー ココット・ジャポネーズ 24cm チェリーレッド	2,200円（税込） 以上お買い上げで A+
ブラウン マルチタイク9 ハンドブレンダー MQ8145XS ブラック	1,000円（税込） 以上お買い上げで B+
PRINCESS Milk Frother Pro	700円（税込） 以上お買い上げで C+
BRUNO セラミックトースター タッカーセット	300円（税込） 以上お買い上げで D+

キャンペーン対象牛乳の購入レシート（合算）でご応募ください **ミルクde応援** **検索**



牛乳川柳コンテスト

「牛乳川柳コンテスト」は、年末年始という1年に思いを巡らせるタイミングで牛乳・酪農のことを考えてもらい、川柳で牛乳・酪農を盛り上げていきたいという考えで企画しました。このキャンペーンは、2022年12月20日（火）～2023年1月31日（火）にかけて牛乳・酪農をお題として投稿された川柳の中から「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」を選び、それぞれの賞に応じた賞品をプレゼントするという内容でした。投稿された川柳は、Twitterにて「#牛乳川柳コンテスト」で検索すると閲覧できます。入賞作品は今後決定した際に本会のホームページやSNSで発表していきます。

牛乳川柳コンテスト

応募期間 2022年12月20日～2023年1月31日

牛乳・酪農（牛、牧場等）などをテーマにした川柳を詠んで、コンテストに参加しよう！

(例) 牛乳を
飲んだ証の
白いヒゲ

最優秀賞
1名

LL牛乳1ケース
(200ml×24本) + バター1ケース
(200g×6個)

優秀賞
4名

バター
1ケース

入賞
10名

LL牛乳
1ケース

※当選者にはDMで2月下旬ごろご連絡いたします。
※応募いただいた作品の表彰を、本アカウントまたはHPにて予定しております。

牛乳川柳 投稿例

- 親離れ しても出来ない 乳離れ
- 「がんばって」 ホットミルクに 添えたメモ
- 帰宅中 「牛乳買って」と LINEあり
- 風呂上り 親父はビール 僕牛乳
- 玄関に 朝を知らせる 瓶の音
- 牛乳を 切らすとキレル 我が子達
- 冷蔵庫 牛乳2本 指定席
- 伸びてゆく 牛乳消費と 息子の背

これらのキャンペーン情報は本会のホームページ、Facebook、Instagram、Twitterでも随時紹介していきますので、是非チェックしてみてください。

＼ 九販連公式ホームページ・SNSアカウントはこちら！ ／

ホームページ <https://kyuhanren.com/>
Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
Instagram <https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>
Twitter https://twitter.com/love_milk_club



「牛牛っと時短：#九州時短ミルクレシピ」キャンペーン

この冬SNSで人気の料理研究家Yuuさんに九州の牛乳・乳製品をたっぷり使った時短料理3品をInstagramで紹介してもらい、そのレシピを参考に料理写真を投稿していただいた方の中から40名へ豪華賞品をプレゼントするキャンペーンを展開いたしました。投稿者からは、「生クリームを使わなくても牛乳でコクが出て美味しくできました!」「ミルク鍋に味噌を入れてアレンジしました!」など喜びのコメントをたくさんいただきました。これからも牛乳・乳製品の消費拡大に繋がるようレシピを積極的に発信してまいります。



九州 Love Milk Club presents

ぎゅぎゅ

牛牛と時短

九州時短ミルクレシピ
キャンペーン

Yuuさん(料理研究家)

キャンペーン期間 **2022年12月20日(火)～2023年1月31日(火)まで**
牛乳や乳製品を使用した料理を作り「#九州時短ミルクレシピ」のハッシュタグをつけて
Instagramに投稿すると、抽選で豪華賞品をプレゼント!

「#九州時短ミルクレシピ」で数多く投稿いただいた中から写真とコメントを一部ご紹介いたします!

白菜と人参のミルフィーユミルク鍋



アレンジして味噌ベースに! 冬野菜の白菜にも味がしみて牛乳を入れるのでコクとまろやかなミルク鍋になります。

牛乳とチーズのカルボナーラ



牛乳とチーズで、カルボナーラの昼食!

あつあつグラタン



パンの上にバターを塗ってあつあつのグラタンをのせて食べるとおいしい!

牛乳鍋



牛乳の旨味が染み渡って美味しいです。締めうどんなどもオススメです。

白菜とベーコンのクリームパスタ



Yuuさんのレシピ「白菜とベーコンのクリームパスタ」を再現してみました!

スパゲッティーグラタン



やさしい味でアツアツで美味しいです。